

## 第2学年 道徳科学習指導案

に組 男子 16名 女子 18名 計 34名  
指 導 者 榊 将 和

### 1 主 題 名 じぶんのいいところ

A「個性の伸長」 自分の特徴に気付くこと。

### 2 主題について

#### (1) 主題の位置とねらい

この期子どもたちは、これまでに、学校生活の中で、学級活動で友達のよい所を見つけたり、生活科の学習で自分の成長に気付いたりすることで、自分のいいところに気付いてきている。しかし、あきらめや無関心などから、自分のいいところを見つけようと思いつつも自分を客観的に見られなかったり、あきらめや無関心などから自分のいいところを見付けられなかったりすることも多い。このようなことから、この期子どもたちに、褒められて嬉しかったことが、自分のよい所に繋がったり、叱られて注意されたことが自分の短所に繋がったりすることに気付かせ、自分のいいところにつながることを多く見つけていこうとする心情を育てる必要がある。

そこで、本主題では、自分のよい所や短所に気付こうとしながらも、実感できていない場面で生じる心情や心情の変化を自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら追究する活動を通して自分では気付いていない自分のいいところにつながるものを多く見つけていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、自分の特徴に気付こうとする生き方は、自他共に意欲的に生活していこうとすることや互いのよい所を認め合い高め合いながら生活することができるようになるということにつながるというよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、自分の特徴に気付く、長所を伸ばす生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

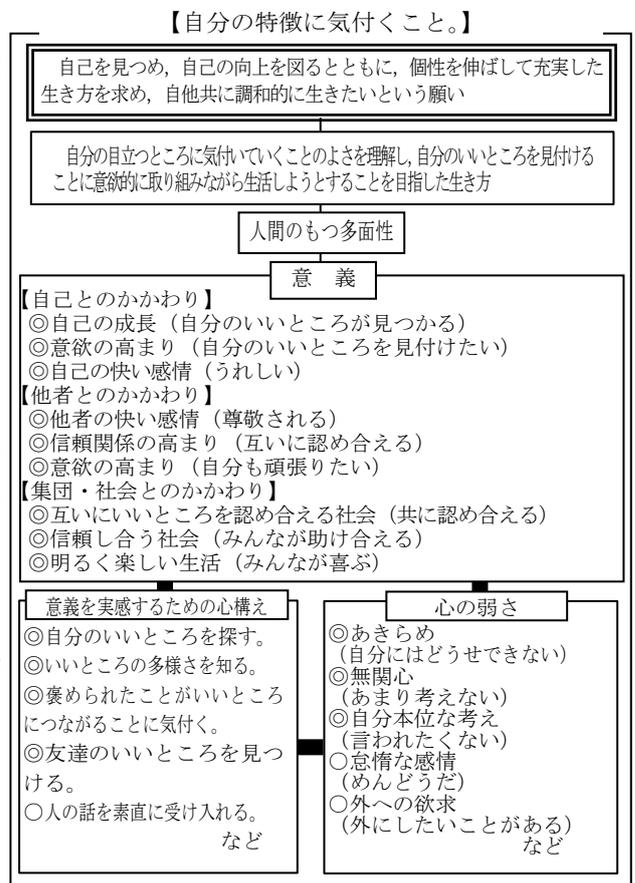
#### (2) 指導の基本的な立場

自分の特徴に気付くことについて、道徳的価値のもつよさや意義に着目して、人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

自分の特徴に気付くこととは、具体的な場面で芽生えてくる自分が他者と比べて目立つよい点に多く気づき、実感していくことと捉えることができる。

ここでは、自己を見つめ、自己の向上を図ると共に、個性を伸ばして充実した生き方を求め、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、自分の目立つところに気付いていくことのよさを理解し、自分のいいところを見付けることに意欲的に取り組みながら生活しようとする生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さから、価値理解及び人間理解を深めていくことになる。

具体的には、自分のいいところを探したりよいところにはいろいろな種類があることを知ったりすることが、自分のいいところに気付くことになり、自分のいいところをもっと見つけたいという



◎は重点的な学習内容

気持ちになることや周りの人と互いに認め合いながら生活できるようになることを実感させる必要がある。また、自分のいいところを見付けたいと思いつつも、「どうせ自分には出来ない」といったあきらめの感情、「あまり考えたことがない」といった無関心などの心の弱さがあることも多面的に考えさせることを通してよさや意義を実感させる必要もある。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物教材「きらきらみずき」(学研教育みらい)を取り上げることにした。この教材は次のような粗筋である。

学校生活において、足が速い友達や計算の早い友達、字がきれいな友達など、いいところを多く持っている友達に囲まれていた主人公は、自分にはいいところがないと感じてしまう。ある日、転んだ友達を助け保健室へ連れて行くと、養護教諭や友達に「優しい」「何でも頑張る」と褒められ、うれしくなる。自分のいいところに気付いた主人公は、下校後母親にも「いいところいっぱい知ってるよ。」と自分のいいところを伝えられ、自分のいいところを実感し嬉しくなるという内容である。

この教材を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、一枚絵を効果的に活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公の心情を重ね合わせて類推させながら、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、自分が考えたい問題を追究していくために、教材の一読から、優しいところがいいところだと感じた主人公の心情を考え、足が速い、字がきれいなどの見つけやすいいいところと優しさという見つけづらいいいところを比較させながら、いいところはどこにあるのか、自分のいいところを知ると、周りにどんなよさがあるか(意義・心構え)、またそれらを阻む心の弱さを多面的・多角的に追究させる。その際、自分の内面にある体験場面と重ね合わせながら、主人公の行った行動の変化とその背景にある心情を、重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究できるようにする。さらに、学習を通して今後、実践していきたい生活場面を具体的に考えさせることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、自分の特徴に気付き、長所を伸ばすことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが自分の生き方についての考えを深めることに繋がり、豊かな自分の生き方を追究し続けることになると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの自分のいいところに気付くことにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 自分のいいところの捉え(総反応数 40)

経験	反応数(人)	経験	反応数(人)
優しい	9	やる気がある, 明るい	2
足が速い	7	友達作りがうまい	2
字がきれい	3	頭がいい	2
努力する, 打ち込むものがある, 特技がある	6	わからない	7
礼儀がある	2		

[表2] 実践を阻む心の弱さについて(総反応数 60)

心情	反応数(人)	心情	反応数(人)
あきらめの感情(自分にはできない)	27	怠惰な感情(めんどうだ)	7
思慮不足(知らないままがいい)	14	外への欲求(やりたいことに夢中)	2
無関心(考えたことがない)	10		

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方(意義)についての認識(総反応数 72)

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対自己	うれしい, 自信がつく	13	対他者	自分も頑張ろうと思う	11	対集団・社会	みんながいい気持ちになる	10
	誉められる	9		すごいなと思える	8		みんなが信用し合える	7
	もっと知りたくなる	8		明るくなる	6			

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識（総反応数 34）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
自分のいいところを見つけようとする気持ち	13	周りの人のいいところを見つける	6	優しい気持ちをもつ	1
楽しくしたい気持ち	12	自分のいいところを増やす気持ち	2		

[表1]の自分のいいところについては、「優しい」「足が速い」「字がきれい」等の捉えをもち、行為に表れるものをいいところとして捉えていることが多い一方で、自分のいいところが分からないと捉えている子どももいることが分かる。これは、自分の短所を強く意識していたり、[表2]の「自分にはできない」「考えたことがない」などの心の弱さが原因だと捉えていたりする子どもが多いからだと考えられる。さらに、[表3]から、自分のいいところに気づくと、「うれしい」「自分も頑張ろうと思う」「みんなが信用しあえる」などの意義を感じている子が多いが、[表4]から、「いいところを見つけようとする気持ち」「周りの人のいいところを見つける」などの心構えの大切さを感じている子どもが少ない。これは、自分のいいところを実感したと感ずる経験が少ないからだと考えられる。

これらの実態から、「自分のいいところを探す」「いいところとは、いろいろなものがある」などの心構えや、「自信が付き、うれしくなる」などの意義を関係付けて考えさせたり、あきらめの感情をもって生活することが、自己の成長につながりにくいことを関係付けて考えさせたりして、自分のいいところに気付くこととは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。

一方、道徳科において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え、互いの考えを比較したり関係付けたりしながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方に触れさせていく際に、自分の立場を明確にさせながら、互いの考えやその理由を交流させる必要がある。さらに、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、その理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

#### (4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、自分の特徴に気付くことの生き方のよさを主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、自分のよいところについての自分なりの捉えを、他の見方・考え方・感じ方と比較して考えさせることで、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために、登場人物のいいところが表れる場面に焦点化し、多様な道徳的価値観を受容する学び合う活動を行う。その際、子どもたちに、一枚絵を示しながら、どの人物が一番きらきらして見えるか、またその理由は何かを表出させることで自分の立場を明確にし、それぞれの見方等を比較しながら、話し合わせる。そして、話し合ったことを基に、「自分のいいところが、気付かれなくてもよいか」を考え、ここでの意義・心構えである「自分がよいと思えばよい」「いいところにはいろいろなものがある」「褒められたことがいいところにつながる」といった見方等を関係付けて考えさせていく。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために、設定された学習問題を基に、自分の生き方を具体的に振り返らせる。その際、教材中の主人公の考えや話し合い中の友達の考えなど、自分の見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活場面で生かせそうかを視点に具体的に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させ、友達に発表させる。それらの場面と関連したこれまでの生活の中の子どものいいところを紹介し、期待感をもつことができる場を設定する。

### 3 本 時

#### (1) ねらい

ア 自分のいいところに気付くことにかかわる内容について、「自分のいいところを探す」「いいところにはいろいろなものがある」「自分のいいところが見つかる」などの意義や心構えの大切さについて自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

イ 自分のいいところに気付くことにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で、自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら考え、表現することができる。

ウ 自分のいいところに気付くことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分のいいところに気付いたり、自分のいいところを見つけていこうとする気持ちを高めたりすることができる。

#### (2) 本時の展開に当たって（本時の主張）

多様な道徳的価値観を表出させるために、「一番きらきらして見えるのはだれだろう」と問い、「足が速いまゆみ」「優しいみずき」「字がきれいなようすけ」といった立場を基に、その理由や考えを明確にして、互いの見方等を比較しながら展開していく。

#### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 見付けやすいよき ← → 見付けにくいよき じぶんのいいところは、どこにあるだろう。	7	○ 自分のいいところについての自己の捉え方を明確にするために、「自分のいいところはどこだろう」と問い、自分の見方等と友達の見方等を比較させ、問題意識を高めさせる。
さぐる	2 教材「きらきらみずき」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 教材を聞きながら、主人公の心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 (2) 登場人物のいいところが表れる場面とそれぞれのいいところについて話し合う。 【きらきらして見える人物とその理由】 【まゆみ】足が速いのは見付けやすいな。 【みずき】優しいと、友達が集まる。 【ようすけ】字がきれいだと花丸がもらえる。 【心の弱さ】 ・自分にはできない（あきらめの感情） ・あまり考えない（無関心） ・言われたくない（自分本位な考え方）など 【心構え】 ・自分がよいと思えることを探す。 ・褒められたことがいいところにつながることに気付く。 ・友達のいいところを見付ける。 ・人の話を素直に受け入れる など	14	○ 教材を感動的に読み取らせるために、録音CDや一枚絵を効果的に活用する。 ○ 主人公の気持ちを自らの内面と重ね合わせて考えさせるために、登場人物のいいところが多様に出てくる場面に焦点化し、登場人物それぞれのいいところについて話し合い、その理由や考えを明確にさせる。 ◎ 「一番きらきらして見えるのはだれだろう。」 ○ 「足が速いまゆみ」「優しいみずき」「字がきれいなようすけ」「計算が速いえりこ」「分からない」とを比較しながら、考えさせることを通して、多様な道徳的価値観を表出しながら学び合う場を設定する。その際、「足が速いのは見付けやすい」「字がきれいだと花丸がもらえる」「優しいところは助けた時しか気付かない」等の異なる見方等をもった子ども同士を意図的に交流させる。
見つける	【意 義】自分の成長につながる→もっといいところを見付けたい→お互いに信じ合える→いいところを認め合える→みんなが過ごしやすくなる など (3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 いいところには、見付けにくいものもあるんだな。自分のいいところをもっと探してみたいな。	14	◎ 「自分のいいところが周りの人に気付かれなくてもよいだろうか。」 ○ 「自分がよいと思ういいところを探せば良い」「いいところにはいろいろなものがある」「自分のいいところが見つかる」などの意義や心構えと自分の生活場面と関係付けて考えさせる。その際、自分のいいところに気付いたり気付くことができなかつたりするとどうなっていくかを想起させたりする。
深める	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して自分なりの考えをまとめる。 じぶんでは、気づいていなかったけれど、友達にいつも面白いと言われたことがあったな。それもいいところかもしれない。	8	◎ 「今日学んだことは、これからの自分の生活の中でどんなときに生かせそうですか。」 ○ 学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせる。その際、今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考え、生活の中で生かせそうな具体的な場面を考えさせる。
見通す	4 自分のいいところに気付くことについての説話を聞く。	2	○ 学習したことへの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を言う。

